

## 第 8 次調査調査概要

昨年夏の第 6 次調査の後、平成 27 年 3 月に第 7 次調査を実施し、第 1 主体部の構造を確認しました。今回の第 8 次調査では、第 6 次調査で確認していた石棺内部の調査を実施しました。

### 1、石棺の調査

石棺は 5 枚の板石により蓋をされていました。蓋石の重なり方から中央の大きな板石が最後に置かれ、その両側がその前、南北の両端が最初に置かれたことが分かりました。調査ではその順番とは反対に最後に置かれた蓋石から順番にはずしていきましました。蓋石をはずすと、蓋石の内側は真っ赤に彩色されていることが分かりました。また、石棺の側石内部、底面も赤く塗られていて、死者は赤い世界の中に安置されていたことが分かりました。

蓋石をはずすと石棺の上部が見えてきましたが、側石の上には粘土が貼られていて、粘土の上に蓋石が置かれていることが分かりました。側石の上に貼られた粘土の上から小型竪櫛が出土しており、側石を置いた後粘土を貼る際に朱の粒を巻いたり、竪櫛を置くなどの手順が踏まれていることが分かりました。

石棺は南北方向に設置されていました。石棺は北側の板石を二重にし、東西の側石を 3 枚、南側を 1 枚で構成しています。側石の外側には側石の継ぎ目を補うように板石が立てられていました。石棺は全体に頭蓋骨が置かれた北側が高く、南側が低く作られていました。外側で長さは 2 m 2 0 c m、最大幅 8 5 c m、内法で長さ 186c m、幅 4 3 c m を測ります。深さは 2 0 c m 前後です。西側の北側石は割れており、東西ともに中央付近の側石は内側に傾いています。また、南側の底石は南側に向けて傾斜しています。このような状況は石棺に大きな力が加えられ、ゆがんだ状態であることを示しています。

石棺の外側には幅 2 0 ~ 3 0 c m の白い粘土の帯が観察されます。石棺を設置した後に外側に充填された粘土と思われるのですが、詳細は今後の調査で明らかにしたいと思います。



石棺開封調査